

観光現象に関する人類学的研究

研究の概要

企業経営の多様性について「ヒト」の側面から検討することに関心を持っており、最近「人類学」的な手法でその違いを解明することに取り組んでいます。世の中に存在するあらゆる組織体は、ほぼ例外なく、異なるものの見方、考え方、行動の仕方をし、多様な目的を持った人たちを「共通目的」を設定して束ねることで事業を行っています。したがって、組織体にはさまざまな個性が発生します。この個性を「ヒト」のレベルまでさかのぼって観察することが最大の研究テーマです。

こうした関心から観光現象を検討すると、大きく2つの個性が見えてきます。1つは、観光にかかわるさまざまな経営体とそこで働く人々の個性であり、いま1つは観光者の個性です。こうした個性がどのような理由からもたらされるのか、また個性が絡み合うことでどのような現象がもたらされるのかについて研究をすすめ、その成果をフィードバックすることで、「よき観光」のあり方を検討していきたいと考えています。

こんな課題解決のために

観光産業はサービス業のひとつであり、ヒトがヒトに対してサービスを行う部分が大きい以上、誤解、勘違い、行き違い、習慣の違いなど、コミュニケーション・ギャップがもたらすトラブルは必然であり、不可避です。特に、外国人旅行者を受け入れる場合にはこうした傾向がより顕著になります。しかし、インバウンドによる外国人観光客の誘致は、少子高齢化による人口減少が始まりつつある日本の観光産業の生き残りにおいては至上命題と言っても決して過言ではありません。こうした状況にかんがみ、人類学的視点から、外国人旅行者の行動特性と、旅行ニーズについて分析することで、解決策を検討します。

行政・経済界・地域と連携した取り組み例

前任地（徳島）において、「海外投資」、「まちづくり」、「環境管理」、「地場産業」、「行財政改革」、「MOTセミナー」など、幅広い分野で産官学連携に携わってきました。和歌山におきましても微力ではありますが、何らかのお役に立てればと考えています。

研究者からのメッセージ

さまざまなタイプの人間のさまざまな行動に強い関心を持っています。ぜひ、機会があれば日本における外国人旅行者の行動パターンをじっくりと調査したいと考えています。同じ関心を共有する方々との共同研究を希望いたします。

研究分野 : 比較経営論・観光行動論

研究者の所属部局・職位・氏名 : 和歌山大学観光学部 観光学科・教授・出口竜也

本件に関するお問い合わせ : liaison@ml.wakayama-u.ac.jp